

## 開所40周年を迎えて

所長 奥山 修司

岡山県古代吉備文化財センターは、県内埋蔵文化財の発掘調査や出土品の整理・保存及び活用を行う拠点施設として、昭和59年11月に開所以来、今年で40周年を迎えることになりました。

開所後の10年間は、山陽自動車道等の高速道路や県立大学開校に向けた施設整備など、各種開発事業に伴う記録保存調査に対応するため、調査員を増員し体制強化が図られました。その後の10年間では、<sup>とまた</sup>苦田ダムや<sup>みまさか</sup>美作岡山道路等の公共事業、岡山国体に向けた県陸上競技場の整備など大規模調査が重なり、調査面積・調査員数・事業費ともにピークを迎えた時期となりました。更にその後の10年間では、大規模公共事業が相次いで終了し事業が減少する中、<sup>きじょう</sup>鬼ノ城や岡山後樂園など保存目的調査にも新たに取り組みました。

そして、ここ最近の10年間では、比較的小規模な記録保存調査に加え、<sup>づか</sup>こうもり塚古墳・<sup>びつちゅう</sup>備中国分尼寺跡<sup>こくぶんにじあと</sup>など史跡整備等保存活用のための発掘調査や、出土品の公開活用など普及啓発に関する事業への比重が高まってきました。そして、郷土岡山の歴史や文化を大切に、文化財の適切な保護・保存・活用を図っていくためには、特に将来の担い手である子どもたちへの普及啓発が重要であり、学校教育活動と連携した取組の充実が益々求められる時期となっております。

こうした状況を踏まえ、開所40周年の節目の年である本年度において、周年記念事業として展示会を6月から約1か月間、県立博物館を会場に開催し、その中でも「ジュニア解説員」として県内の中高生に、出土品に関する展示解説にもチャレンジしてもらいました。参加した生徒たちにとっては、貴重な探究的学びにも繋がったのではないかと考えております。

また、例年開催の発掘調査報告会や各種講座、親子で楽しめる体験活動等も開所40周年記念として少しずつ工夫を加えながら実施してきておりますし、11月には記念シンポジウムの開催も予定しております。

このように40周年を契機とした様々な取組により、文化財を大切にする意義についての理解を促進し、次世代に継承していく機運を益々盛り上げていきたいと考えておりますので、今後とも関係各位の御指導と御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



史跡備中国分尼寺跡の復元瓦とともに



# 古代吉備文化財センターの歩み

地域の埋蔵文化財と向き合い続けて40年。古代吉備文化財センターの直近10年間の歩みを振り返ります。

## 記録保存調査

安全・便利な道路の開通や改築、西日本豪雨により本格化した、高梁川流域を水害から守るための治水工事などの開発事業により、やむなく失われてしまう埋蔵文化財について、その記録を残すために実施する発掘調査です。

30周年  
(2014)

1

2014～2015

神明遺跡

(総社市)



銅鐸発見

2015～2017

マキサヤ遺跡

(里庄町)



様々な文様の縄文土器



2014～2017

百間川一の荒手

(岡山市)



緊密に積み上げられた巻石

2017～2019

桑山南古墳群

(津山市)



陶棺を埋納



2017～2019

南山城跡

(倉敷市)



守りの堅い山城



2018～2020

桑山古墳群

(津山市)



5基の円墳

2022～2024

高尾宮/前遺跡

(津山市)



室町時代の屋敷地

40周年  
(2024)

2023～

酒津遺跡

(倉敷市)



人骨が残る箱式石棺

# 保存目的調査

地域の歴史や文化を理解するうえで重要な遺跡を対象に、その保存を目的として、遺跡の実態を把握するために行う調査です。調査で得られた様々な記録や情報が、未来にその価値を伝えるための資料になります。

現在は県内有数の歴史遺産が集中する「吉備路」に所在する史跡の歴史的価値や魅力を調査・発信しています。

## 2013～2020 1 中世城館跡 総合調査



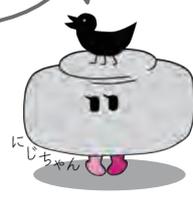
こうもり塚古墳は墳丘  
全長が96mであること  
が判明したよ



## 2 2020～ 吉備路総合調査



古代瓦の復元製作  
動画を配信中♪  
よろしくね!



# 公開活用

地域に継承されてきた史跡や文化財の歴史的・文化的価値を広く知ってもらうために、発掘調査成果の発信や様々なイベントを行っています。

歴史遺産を通じて、地域への愛着を育み、貴重な文化財を次世代へと継承していくことを目指しています。



令和6年6月20日(木)から7月21日(日)まで、岡山県立博物館にて古代吉備文化財センター開所40周年記念テーマ展「吉備から岡山へー最新の発掘調査成果からー」を開催しました。

このテーマ展では近年の発掘調査で見つかった出土品を展示し、人々の暮らしやまつり、墓や城などの特徴に迫り、かつて吉備と呼ばれた地域の歴史について紹介しました。

主な展示遺物は、袈裟襷文銅鐸けさだすきもんどうたく（総社市・神明遺跡出土、岡山県指定重要文化財）、勾玉まがたま（浅口市・城殿山遺跡出土）、陶棺とうかん（津山市・桑山南1号墳出土）、銃弾じゅうだん（倉敷市・南山城跡出土）、備前焼びぜんやき軒平瓦のきひらがわら（備前市・特別史跡旧閑谷学校出土）などです。これらに加えて、5月に総社市指定重要文化財に指定されたばかりの、こうもり塚古墳の出土品をお借りし、展示することができました。

開催の準備に際しては、岡山県立博物館の皆さんから全面的にお力添えをいただき、無事開会を迎えることができました。

また、6月22日(土)、7月6日(土)、20日(土)には当センター職員による、7月13日(土)・14日(日)にはジュニア解説員による展示解説を行いました。ジュニア解説員とは県内から応募のあった歴史に興味のある中学生・高校生で、7名の生徒さんが参加してくれました。解説員の皆さんは事前に今年の3月から当センターで出土品に直接触れてその特徴について学び、当日に向けて準備を進めてきました。展示解説当日は、多くの観覧者の前で若さと熱意あふれる解説を行っていただきました。

このように、本展覧会はセンターの40周年を記念するだけでなく、次の世代に文化財を引きついでいく機会ともなりました。

(和田 剛)



展示替えの様子



展示会場の様子



センター職員の展示解説



ジュニア解説員による展示解説

令和 6 年 7 月 6 日（土）に岡山県立博物館において、近年発掘調査を行った遺跡の調査成果を紹介する報告会を開催しました。当日は猛暑のなか、122 名の参加がありました。

今回は当センター開所 40 周年を記念して、県内の遺跡だけでなく、特別企画として全国的に注目されている鳥取県の史跡青谷上寺地遺跡あおやかみじちも取り上げました。報告では、鳥取県立青谷かみじち史跡公園による青谷上寺地遺跡（鳥取市）、当センターが発掘調査を行った高尾宮ノ前遺跡（津山市）、史跡備中国分尼寺跡ぶんめいどうたいがく（総社市）、岡山大学文明動態学研究所による津島岡大遺跡（岡山市）の最新の発掘調査成果について、わかりやすく映像をまじえて発表いただきました。

参加された方々からは、「写真だけでなく、三次元画像や動画、図による説明がとても分かりやすかった」、「ぜひ、現地（遺跡）に訪れてみたい」などの感想が寄せられました。

閉会後は、県立博物館で開催中の当センター開所 40 周年記念テーマ展「吉備から岡山へ - 最新の発掘調査成果から -」の展示解説を行い、とても盛会でした。（米田克彦）



鳥取県・史跡青谷上寺地遺跡の報告



史跡備中国分尼寺跡の報告

現在、センター 1 階展示室で開所 40 周年企画展「おかえりなさい！『発掘された日本列島 2023』展出品遺物」を開催しています。

当センターは、文化庁主催の『発掘された日本列島 2023』展に一般国道 53 号（津山南道路）改築工事に伴い発掘調査を実施した、津山市の桑山古墳群・細畝古墳群ほそうねほかの遺物を出品しました。しかしながら、この展覧会の開催地が遠方である山梨県立考古博物館及び長崎県の対馬博物館であったため、御覧になった県民の方は多くはなかったのではないのでしょうか。

そこで今回の企画展では、『発掘された日本列島 2023』展に出品した遺物の一部を展示し、桑山古墳群ほかの発掘調査成果について解説しています。併せて『発掘された日本列島 2023』展の内容や、展示館についても御紹介しています。

主な展示品として、桑山 1 号墳出土の須恵器すえき壺、提瓶ていへいのほか、高尾北ヤシキ古墳出土の筒形土製品つつがたどせいひんがあります。

展覧会の会期は 10 月 14 日（月・祝）まで。この機会にぜひ御来場ください。

（和田）



企画展の様子

令和 6 年 7 月 30 日（火）から 8 月 2 日（金）まで、人と科学の未来館サイピアを会場として開催しました。勾玉と鏡をつくる古代体験のほか、南山城跡（倉敷市）と伊福定国前遺跡（岡山市北区）のパネルや出土品の展示を行いました。また、今年は当センター開所 40 周年を記念して、古代の勾玉に使われた石の標本を観察してもらうコーナーを特別に設けました。

古代体験では、当センター職員が勾玉と鏡についての説明をした後、津島遺跡ボランティアの皆さんの御協力のもと、それぞれの体験に取り組んでいただきました。参加者からは「歴史の勉強だけでなく、普段できない貴重な体験ができてよかった」「鏡を磨くのは大変だったけど、楽しかった」「勾玉が色々な石で作られていることが知れてよかった」という感想をいただきました。

今後も当センターの夏休みの恒例イベントとして開催していきたいと考えています。

（杉浦香菜子）



鏡づくり：顔が映るぐらいピカピカに！



勾玉づくり：キレイな形にできるかな？

## なかつ 中津遺跡

たましまくるさき  
倉敷市玉島黒崎

## 海に隣接した集落遺跡

倉敷市玉島黒崎に所在する中津遺跡では、水島港唐船線の改築工事に伴い令和 6 年 6 月から 10 月まで発掘調査を行っています。

中津遺跡は寄島山地の東端、屋守川が形成した扇状地形の裾部にあり、遺跡のすぐ東側は中世まで海岸であったと考えられています。

調査地の南にある中津貝塚は縄文時代後期の指標となる「中津式」土器や、腕に貝輪をはめた人骨が出土するなど注目されてきた遺跡です。

調査の結果、東に向かって下がる緩斜面が広がり、その斜面上方では縄文土器や石製品、ハイガイなどの貝殻を含む層を検出しました。斜面下方では中世の土坑や溝、掘立柱建物が確認されています。溝からは土師器の椀を含む土器が数点、土坑からは土師器の椀と鉄滓が出土しました。今回の調査から海浜部における中世集落の一端が明らかになりました。

（森本 蓮）



溝の遺物出土状況（北から）

## むこうやま 向山遺跡

おさふね い い  
瀬戸内市長船町飯井

## 弥生時代後期と古墳時代前期の 集落を発見

広域河川改修事業（千田川）に伴い、向山遺跡の調査を令和6年4月から6月まで行いました。今回の調査区は、長船町飯井を東から西に流れる千田川の北側に接する丘陵上に位置します。

弥生時代後期の遺構として、穴の底が上端よりも広くなる形の袋状土坑・基と竪穴住居・軒があります。袋状土坑の底は最大径が1.6mを測る楕円形で、底付近で完形品に近い甕や鉢などの土器が見つっています。竪穴住居は東西5.1m以上ですが、調査区外へ延びるため住居全体の形状は不明です。

古墳時代前期の竪穴住居は方形で1辺5m、深さ0.2mで、床で土器のほか管玉1点を検出しました。管玉は深緑色で、長さ1.3cm、幅0.4cmです。

調査後半の6月6日には地元対象の現地説明会を行い、6月7日には地元の美和小学校5・6年生が見学を訪れ、遺跡への理解を深めていただきました。（氏平昭則）



調査区全景（東から）

## そのいどい 園井土井遺跡

笠岡市園井

## 中世の館跡周辺の発掘調査

令和6年5月から9月にかけて、県道園井里庄線地方道路改築に伴う園井土井遺跡の発掘調査を行っています。本遺跡は、昭和60（1985）年度にも当センターが調査を行っており、鎌倉時代

から室町時代（13～16世紀）の建物17棟や長さ30m以上の柵と堀跡などがみつっていて、館の跡と評価されています。今回の調査区は、過去の調査地点より北西に約100mの場所です。

調査地は北向きの丘陵斜面で、傾斜がゆるやかになった場所に中世の生活の痕跡が残されていました。西側の調査区では火をたいた炉の跡が複数みつっています。このうちの一つは、一辺約80～90cmの隅丸方形で底に粘土を貼り付けています。炉の内部は強い熱を受けており、炭焼きや鍛冶などに用いられた可能性があります。東側の調査区では掘立柱建物がみつっています。

このような状況から、過去の調査で知られていた館跡の外縁部の様子がわかってきました。（四田寛人）



西側の調査区でみつった炉の跡

## センター 収蔵品紹介

ひゃっけんがわはら おしま  
百間川原尾島遺跡  
出土の瓦経

の界線間には、表面「諸樹華…」「諸山深嶮…」、裏面「令歡喜快…」「深妙音…」と線刻された文字が認められ、その内容から『妙法蓮華經』卷六法師功德品第十九の一部とわかりました。

また、1行の文字数は表面が20字、裏面が17字と20字に復元できます。20字となるのはこの部分が経文中の五言絶句からなる韻文形式の「偈（仏の徳をたたえ教理を述べた詩）」に当たるためです。瓦経1枚の行数は両面ともに15行と考えられます。さらに1行17字ないし20字、両面行数計30行の規格で『妙法蓮華經』卷六を割り付けたところ、瓦経17枚分となり、出土した破片はその15枚目の一部とわかりました。

日本では、平安時代後期の永承7（1052）年、釈迦の教えだけが残り、悟りが得られなくなる末法の世に入ると信じられ、大きな社会不安となっていました。そこで、弥勒出現の世まで永く経典を伝えるための経塚が全国に数多く造られました。またその造営は、善行で極楽往生しようと願う浄土思想とも密接に結びついています。経塚に埋納された経典の多くは、紙に写経した紙本経ですが、朽ちずに伝わる瓦経を納めた瓦経塚が全国で40例ほど知られています。これらは、11世紀後半からの約100年間に造営されたと考えられ、そのほとんどは愛知県以西の西日本を中心に発見されています。

岡山県内では8例の瓦経が見つかっています。4例が旭川東岸平野に集中することは特筆され、平安時代の不朽の祈りを物語ります。  
（高田恭一郎）

## 土製品が物語る平安時代の不朽の祈り

岡山市中区原尾島の百間川河川敷内で検出した室町時代から江戸時代の溝を調査したところ、粘土板に経文を刻んで焼成した瓦経の破片が出土しました。

縦6.8cm、横4.6cm、厚さ2.2cmを測る小破片で、表面は瓦経の右上隅、裏面は左上隅となります。縦に引かれた幅1.6cm



瓦経が出土した溝（中央）



裏面



表面

百間川原尾島遺跡の瓦経



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3  
TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142  
WEB <https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>

- ◎ 交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分  
JR桃太郎線吉備津駅下車徒歩25分
- ◎ 業務時間 AM8:30～PM5:15
- ◎ 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始
- ◎ 展示室の開館 AM9:00～PM5:00  
土・日・祝日も開館しています。（臨時休館あり）

HP・SNSも随時更新中

Q 古代吉備文化財センター

